

IV. 診療科活動状況

総合内科

1. 概要、特徴、特色

当院では医師臨床研修制度が必修化される前からローテーション研修を行っており、医師研修に力を入れてきました。内科医は「専門医であろうとも総合的基礎力を備えた医師であれ」というポリシーを掲げて研鑽を積んできました。2012年度に内科病棟のシステム変更を行うことになり、総合内科を立ち上げました。

当院の初期研修医は総合内科から研修をスタートします。医師としての第一歩を踏み出す彼らに基本的な診療スタイルを身につけさせる教育も総合内科の大きな役割です。医師初期研修委員会を月に2回開催し、指導方針の確認を行い、研修医の育成も担っています。

地域医療の現場では、いかなる疾患にも対応できる総合力が求められています。私たち総合内科は「特に専門家に任せるべきものでない限りは、いかなる患者様でも担当する」という態度で診療を行っています。所属する内科医は病院総合内科の専門家（オールラウンダー）としての偏りない高水準の診療を目指しますが、おのおのサブスペシャリティも持っており、その分野では専門診療の責任を担っています。

入院診療では、肺炎や尿路感染症をはじめとする感染症・心不全・糖尿病・脳梗塞等について標準的な医療を提供することはもちろんですが、高齢であることや心理的社会的に複雑な背景から倫理的判断を迫られるケースについての集団的カンファレンスも活発に行っています。

外来診療では他科と協力して二次救急までの救急外来・全科当直、一般内科外来、それぞれの専門に応じた外来を担当しています。救急車は年間3,000件前後搬入されており、日々多彩な救急疾患の診療に当たっています。病棟内に内科HCU

(高度治療室)があるため、ERからの入院への迅速な対応や急性期の管理も行っています。

2. スタッフ

総合内科科長・内科副部長

忍 哲也 日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医、日本肝臓学会肝臓専門医

循環器内科科長

金子 史

救急科医長

守谷 能和 日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

病棟医長

山田 歩美 日本内科学会認定内科医、日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

病棟医長・透析室医長

肥田 徹 日本内科学会認定内科医

病棟副医長

土佐 素史 日本内科学会総合内科専門医
医員（後期研修医）

小野塚良輔 日本麻酔科学会麻酔科認定医
医員（後期研修医）

久志本舞衣子 日本内科学会認定内科医
医員（後期研修医）

佐藤 雄一
医員（後期研修医）

羅 晶晶
家庭医療後期研修プログラムフェロー

角 允博

3. 診療実績

3.1 外来診療

内科急患総合外来、各科専門外来、一般全科当直、
ER担当

3.2 病棟診療（診療実績表参照）

診療実績（診断群分類6桁別、2016年退院患者） 159傷病群+包括外10例

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	教育 入院	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
	包括外	10	75.3	2.0	1	1	9				10
010060	脳梗塞	72	72.9	14.5	28	27	3				72
010061	一過性脳虚血発作	12	74.1	5.5	8	4	0				12
010069	脳卒中の続発症	18	79.6	1.0	0	8	0			18	
010230	てんかん	22	67.4	8.6	20	8	0				22
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	11	36.7	4.1	3	1	1				11
030400	前庭機能障害	36	70.0	4.1	28	10	0				36
040080	肺炎等	95	79.3	13.1	36	28	5				95
040081	誤嚥性肺炎	67	82.5	15.6	39	38	3				67
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）、再発性心筋梗塞	11	83.0	7.0	7	5	0				11
050070	頻脈性不整脈	11	76.0	9.2	4	5	0				11
050130	心不全	60	82.5	11.3	26	22	1				60
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	23	73.7	10.1	2	16	17	1			22
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	25	71.6	2.6	0	5	18	7			18
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	16	73.9	8.6	7	5	5	2		1	13
060280	アルコール性肝障害	17	64.4	22.2	8	9	4				17
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む）	18	63.5	14.5	5	16	4				18
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	18	76.9	12.6	4	10	13				18
080011	急性膿皮症	11	76.2	17.7	3	2	1				11
100070	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く）末梢循環不全なし	11	61.4	13.0	0	5	0		5		6
100380	体液量減少症	11	82.2	6.7	8	2	0				11
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	41	68.2	10.7	5	25	17				41
110310	腎臓または尿路の感染症	68	77.3	13.0	33	22	3				68
130090	貧血（その他）	14	80.9	13.8	5	8	6				14
150010	ウイルス性腸炎	14	50.5	5.0	4	2	0				14
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	11	77.5	12.6	8	5	1				11
161070	薬物中毒（その他の中毒）	21	50.4	4.2	19	3	0				21
180010	敗血症	12	74.0	15.0	10	3	4				12
180040	手術・処置等の合併症	33	67.2	5.1	2	18	24				33
06007x	臍臓、脾臓の腫瘍	33	70.9	6.3	1	9	4	21		5	7
	その他の診断群	365			121	117	45	26	0	25	314
	計	1187			445	439	188	57	5	49	1076

循環器内科

1. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査などを行い、心臓病の早期発見に努めます。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

2. スタッフ

副院長

福庭 勲 日本内科学会認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医

科長

金子 史

3. 診療実績

3.1 外来診療

主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など

手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療

ペースメーカー外来（月1回）

3.2 入院治療

（診療実績表参照）

3.3 検査

（次頁表参照）

3.4 治療

3.4.1 経皮的冠動脈ステント留置術 36例／形成術0例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：LAD 18例、LCX 4例、RCA 14例、CTO病変4例、ISR病変：2例、（RCA 2例）

3.4.2 下肢血管拡張術 12例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：CIA 5例、EIA 2例、SFA 8例、CTO病変9例

3.4.3 ペースメーカー移植術 22例

不整脈：完全房室ブロック2例（DDD 2例）

高度房室ブロック5例（DDD 5例）

洞不全症候群5例（DDD 3例、VVI 2例）

心房細動3例（VVI 3例）

3.4.4 ペースメーカー交換術 10 例

3.4.5 下大静脈フィルター留置 1 例

診療実績 (診断群分類 6 桁別、2016年退院患者)

*医科点数表Kコード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
050030	急性心筋梗塞 (続発性合併症を含む)、再発性心筋梗塞	24	77.7	6.5	14	10	1			24
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	148	70.5	4.5	1	64	32	104		44
050060	心筋症 (拡張型心筋症を含む)	5	74.4	14.0	3	1	0	1		4
050070	頻脈性不整脈	28	77.6	9.1	8	13	1	3		25
050080	弁膜症 (連弁膜症を含む)	21	77.1	13.4	3	10	0	7		14
050090	心内膜炎	10	77.7	29.7	0	3	0	1		9
050110	急性心膜炎	1	67.0	34.0	1	0	1			1
050130	心不全	130	80.1	13.1	51	63	6			130
050140	高血圧性疾患	8	72.6	10.6	5	1	0			8
050161	解離性大動脈瘤	8	77.8	6.1	4	4	0			8
050162	破裂性大動脈瘤	1	84.0	2.0	0	0	0			1
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	2	77.5	15.0	0	0	0			2
050170	閉塞性動脈疾患	35	70.7	7.5	2	11	14	17		18
050180	静脈・リンパ管疾患	2	83.5	6.0	1	2	0			2
050190	肺塞栓症	7	69.9	22.4	1	4	0			7
050200	循環器疾患 (その他)	7	74.4	7.6	5	2	2			7
050210	徐脈性不整脈	30	79.8	9.1	11	12	20		7	23
050340	その他の循環器の障害	3	77.0	16.7	1	0	0			3
	計	470			111	200	77	133	7	330

検査及び処置名	件数
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	36
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	14
ペースメーカー交換術	10
四肢の血管拡張術・血栓除去術	13
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	10
下大静脈フィルター留置術	1
UCG	3331
ホルター心電図	969
トレッドミル	278
経食道エコー	20
心臓CT	168
体内ペースティング	28
体外ペースティング	4
心嚢穿刺	1
PCI(IVUS)	45

呼吸器内科

日本内科学会認定内科医

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

1. 概要、特徴、特色

人口10万対医師数の少ない埼玉県において、呼吸器診療を専らとする医師は極めて少ない状況です。しかし、肺がんを始めとした呼吸器疾患は減少するどころか多くは増加しているのが現状です。そこで当院の立地している東浦和駅周辺地域において、地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺がんなどに対する診療を外来・病棟で展開しています。

当院呼吸器外科とも連携を取り、肺がん手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども依頼しています。

また、当院呼吸器内科の特色の1つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

年に1回、地域住民に向けて閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙することを志しています。

日本呼吸器学会認定施設

2. スタッフ

科長

原澤 慶次 日本内科学会認定内科医
ICD (感染管理医師)

医員

市川 篤 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医

医員

草野 賢次 ICD (感染管理医師)

3. 診療実績

3.1 外来診療

常勤3名ならびに非常勤医師4名で予約外来を行っています。

2012年から始めた慢性閉塞性肺疾患の患者を中心とした2ヵ月間の外来呼吸リハビリテーションを継続して実施し、リハビリ部門だけでなく栄養士や薬剤師なども含め多職種で患者の病状維持に努めています。今後もリハビリテーション部門と連携し、拡充していく予定です。

3.2 検査・手術

病棟での経皮的気管切開術を行っています。2016年は9件の手術を行いました。

気管支鏡検査は原則入院としたうえで施行しており、2016年には87件の実績があります。また、局所麻酔下胸腔鏡検査にも取り組んでいます。原因不明胸水の診断目的などに有用であり、今後も積極的に行いたいと考えています。

3.3 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺がんなどを扱っています。

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

4.1.1 日本呼吸器学会関連施設として、呼吸器内科志望の後期研修医に対する教育・研修プログラムを展開しています。現在、後期研修医1名がプログラムに沿って研修中です。研修の一環として、他院呼吸器内科に1年間の外部研修を行うことを必須としています。

診療実績（診断群分類6桁別、2016年退院患者）

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
040040	肺の悪性腫瘍	106	72.8	15.0	15	36	4	33	30	43
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	2	82.0	18.0	0	1	1			2
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	16	69.6	8.1	5	2	0			16
040080	肺炎等	295	76.3	13.5	106	109	11			295
040081	誤嚥性肺炎	149	81.9	16.9	78	77	12			149
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症 （その他）	14	80.8	15.4	2	5	0			14
040100	喘息	44	65.7	10.8	11	12	0			44
040110	間質性肺炎	40	73.5	22.7	8	15	3	2		38
040120	慢性閉塞性肺疾患	40	78.5	15.5	16	11	1			40
040130	呼吸不全（その他）	3	83.0	6.0	0	1	0		2	1
040140	気道出血（その他）	5	76.0	27.2	2	1	2			5
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	18	69.7	24.7	4	5	4			18
040151	呼吸器のアスペルギルス症	18	68.4	27.4	5	9	2	1		17
040160	呼吸器の結核	3	79.0	47.3	0	2	0			3
040170	抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	5	69.0	9.4	0	0	0	2		3
040180	気管支狭窄など気管通過障害	1	79.0	2.0	0	0	0	1		
040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	9	68.8	16.6	2	4	1	1		8
040200	気胸	20	55.6	10.2	6	9	6			20
040210	気管支拡張症	4	74.3	27.0	1	1	2			4
040250	急性呼吸窮（促）迫症候群	2	78.5	42.0	1	0	2			2
	計	794			262	300	51	40	32	722

化学療法	件数
患者数	17
延べ回数	30

処置検査	件数
気管切開術	9
新規人工呼吸器管理	36
胸腔穿刺	59
気管支鏡検査	87
在宅酸素療法新規導入	90

4.1.2 院内での研修のために、週1回の割合で多職種合同の病棟カンファレンスを行い、複数の視点でより良い診療を行うことを目指しています。

4.1.3 週に1回、呼吸器外科との合同カンファレンスを行い、手術症例のみならず幅広い症例の検討を行っています。

消化器内科

1. 概要、特徴、特色

当院の救急車搬入台数は年間約3,700台に及び、消化管出血や黄疸を主訴とする患者さんも数多く来院するため、救急医療において消化器内科医の果たす役割は大きくなっています。地域に密着した急性期病院として地元の開業医の先生方とも連携し、定期的に地域医療懇談会を開催し、消化器専門科として紹介患者さんの受け入れや、開業医の先生方への逆紹介も積極的に行っています。

当院では上部・下部消化管内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影及びその関連検査、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。ポリープや早期がんに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)や緊急の胆道ドレナージ術(ERCP・PTGBD)の件数も年々増加しています。また、辻忠男医師の指導のもと、膵石治療にも積極的に取り組んでおり、症例数は国内第1位で、大学病院やがんセンターなどからも紹介患者さんを受け入れています。

本年は間野真也医師が入職され、上部・下部早期がんに対する粘膜下層剥離術(ESD)も開始し、これまで外科手術されていた病変も内視鏡治療が可能になりました。

消化器専門外来では消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、消化器がんなどの慢性期管理を行っています。最近ではB型慢性肝炎・C型慢性肝炎の治療件数も増えています。

さらに重症急性膵炎や潰瘍性大腸炎で血液浄化療法が必要になる場面は透析チームと、進行がんに対しては外科や化学療法チーム・緩和ケアチームと連携し、治療を行っています。

学会認定施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本胆道学会指導施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本消化器病学会認定施設

2. スタッフ

院長

増田 剛 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医、日本肝臓学会肝臓専門医

院長補佐

高石 光雄 日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医

副院長・内科部長・消化器内科科長

小野未来代 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会指導医

内科診療部長

辻 忠男 日本内科学会認定内科医、日本超音波医学会認定超音波指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本胆道学会認定指導医

内科副部長・総合内科科長

忍 哲也 日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本肝臓学会肝臓専門医

救急科医長

守谷 能和 日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

内科医長

田中 宏昌 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本がん治療認定医機構

がん治療認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、ICD（感染管理医師）、日本肝臓学会肝臓専門医、JMECCディレクター

病棟医長

久保地美奈子 日本内科学会認定内科医、日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医

医員

間野 真也 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

医員

大石 克己 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

医員

孫 国東 日本内科学会認定内科医

3. 診療実績

(次頁表参照)

4. 教育・研修・研究活動

当科では、まず内科医として消化器以外の患者さんの初期対応や判断、治療ができる力量を身に付けることを目標に、一般外来や時間外診療を担っています。また、各種学会参加や発表も積極的に行い、専門医資格取得を目指しています。

診療実績 (診断群分類6桁別、2016年退院患者)

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
060010	食道の悪性腫瘍 (頸部を含む)	11	75.7	16.0	2	5	7			11
060020	胃の悪性腫瘍	62	74.0	13.6	3	14	44	1	9	52
060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	35	77.1	9.4	4	10	13	11		24
060040	直腸肛門 (直腸S状部から肛門) の悪性腫瘍	18	71.3	12.4	2	8	11	1		17
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む)	59	75.4	10.4	6	39	36	3		56
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	23	73.3	20.6	3	9	8	4		19
060090	胃の良性腫瘍	14	68.0	3.7	0	3	5	9		5
060100	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む)	367	67.6	2.2	0	94	334	31		336
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	55	67.9	6.5	5	14	12	11		44
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症 (その他良性疾患)	75	69.3	10.0	22	31	19	4	4	67
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴わないもの)	41	70.0	11.2	13	18	22			41
060141	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴うもの)	1	81.0	14.0	1	1	0			1
060150	虫垂炎	2	31.0	8.0	1	0	0			2
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	2	85.5	10.5	0	1	0			2
060180	クローン病等	1	34.0	66.0	1	0	1			1
060185	潰瘍性大腸炎	3	30.7	50.7	0	0	0			3
060190	虚血性腸炎	34	65.7	8.7	8	4	1			34
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	21	72.0	9.0	8	7	4			21
060230	肛門周囲膿瘍	2	38.0	15.0	1	1	2			2
060245	内痔核	3	85.7	10.3	2	0	2			3
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	9	45.1	13.3	2	3	0	1		8
060280	アルコール性肝障害	39	61.8	18.4	17	18	6			39
060290	慢性肝炎 (慢性C型肝炎を除く)	9	52.8	14.9	0	4	0	1		8
060295	慢性C型肝炎	1	94.0	16.0	0	0	0			1
060300	肝硬変 (胆汁性肝硬変を含む)	40	69.1	17.0	13	26	10			40
060310	肝膿瘍 (細菌性・寄生虫性疾患を含む)	9	70.6	21.7	3	4	4			9
060320	肝嚢胞	3	77.0	12.3	0	2	1	1		2
060330	胆嚢疾患 (胆嚢結石など)	3	56.7	3.7	0	0	0			3
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	41	75.5	19.5	17	16	24	2		39
060340	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	139	73.3	12.2	31	66	114			139
060350	急性膵炎	64	59.7	14.8	17	36	27			64
060360	慢性膵炎 (膵嚢胞を含む)	142	54.7	10.6	4	136	126	2		140
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍 (女性器臓器を除く)	12	58.1	28.3	2	3	3			12
060570	その他の消化管の障害	21	72.7	8.6	10	4	1	2		19
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	55	71.4	10.3	3	21	12	25	6	24
	計	1,416			201	598	849	109	19	1,288

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	7,115
上部（悪性）ESD	41
上部（悪性）EMR	1
上部（良性）EMR	4
下部消化管内視鏡検査	2,466
下部（悪性）EMR	94
下部（悪性）ESD	2
下部（良性）EMR	367
小腸内視鏡	1
胆道系検査・処置	515
PEG交換	106
PEG造設	21
腹部アンギオ	30
PEIT	3
TACE	37
EIS	1
EVL	8
止血術	15
食道ステント	2
食道拡張	9
肝生検	5
吻合部拡張術	24
穿刺（膿瘍・胆嚢）	68
ラジオ波焼灼	3
超音波内視鏡検査	55
碎石ESWL（一連）	492

B型肝炎患者	93
うち核酸アナログ治療	52
C型慢性肝炎患者	343

小児科

1. 概要、特徴、特色

当科は小児の common disease を中心に入院、外来とも幅広い疾患に対応しています。今年も常勤医が小児神経専門医、小児心身医学会認定医を取得し、専門外来の充実をはかっています。入院は急性疾患の他、食物負荷試験や内分泌負荷試験等の検査入院も行っています。分娩数も多く、新生児疾患への対応もしていますが、NICUを併設していないため、重症な新生児については近隣のNICUへ依頼しています。川口市小児救急診療事業の二次輪番病院です。

当科の特徴として各種の育児支援を積極的に行っています。産前の院内両親学級の講師や祖父母への育児教室、子育ての仲間作りや育児支援のための子育て教室、看護師・保育士によるベビーマッサージ、栄養士による離乳食教室に加えて、2016年はベビーランチも開設しました。

日本小児科学会小児科専門医研修施設

日本小児神経学会小児神経専門医研修関連施設

2. スタッフ

部長

和泉 桂子 小児科学会認定小児科専門医

科長

荒熊 智宏 小児科学会認定小児科専門医、小児科学会認定指導医、小児神経学会認定小児神経専門医、ICD（感染管理医師）

医長

平澤 薫 小児科学会認定小児科専門医

医員

藤田 泰幸 小児科学会認定小児科専門医、小児心身医学会認定医

非常勤

小堀 勝充 (アレルギー外来)

斎藤 陽子 (発達外来)

平井 克明 (発達外来)

脇田 傑 (循環器外来)

中村 明夫 (腎外来)

細谷 通靖 (土曜日一般外来)

計6名の非常勤医師の協力を得て外来を行いました。

3. 診療実績

3.1 外来診療

午前一般外来、午後は専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。紹介患者、救急搬入、急患者は時間外でも随時対応しています。川口市の小児夜間救急診療事業の金曜日を担当しています。

専門外来は、アレルギー・神経・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病外来を開設しています。アレルギーに関しては気管支喘息・アトピー性皮膚炎などへの対応の他、プリックテストや食物負荷試験を外来/入院で実施しています。神経外来は、小児によくあるけいれん性疾患や発達遅滞(障害)を中心に診察しています。心理外来は心身症や不登校などに対応しており、医師による診察、心理発達検査の他、臨床心理士によるカウンセリングも行っています。心理外来は年々患者数が増加しております。

乳児健診は多職種(医師、看護師、保育士、管理栄養士)の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施しています。予防接種は同時接種(1回4本まで)や基礎疾患のある児(けいれん発作、アレルギーなど)にも対応しています。

小児科外来患者数 年間18,594人(小児科紹介患者数 年間369人<入院102人>)

川口市小児夜間救急(一次および二次救急)毎週金曜日 年間1,267人

乳幼児健診 1ヵ月548人、3-4ヵ月393人、

6-7ヵ月302人、9-10ヵ月226人

1歳206人、1歳半299人

合計 年間1,974人(延べ人数)

予防接種 年間4,575人(延べ人数)

3.2 病棟診療

小児科入院ベッド数 15床、小児科入院患者数 年間517人(新生児室入院を含む)

産科分娩数 年間547人(うち新生児室入院 年間181人)

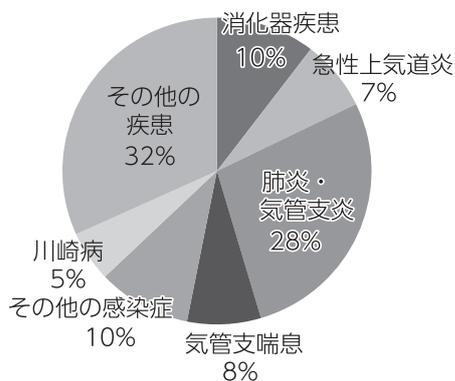
小児病棟入院(主病名):

下気道感染症(気管支炎、細気管支炎、肺炎)100人(RSV47、hMPV4、マイコプラズマ10)、気管支喘息・喘息性気管支炎26人、上気道感染症(咽頭炎、クループ症候群、扁桃炎など)27人、頸部リンパ節炎5人、伝染性単核症(EBV)1人、流行性耳下腺炎4人、蜂窩織炎2人(頬部2、下腿1)、急性筋炎(fluA)1人、インフルエンザA3人、菌血症(肺炎球菌)1人、ネコひっかき病1人、急性胃腸炎32人(ロタ5、アデノ2、fluB1)、腸重積4人、周期性嘔吐症9人、急性膀胱炎2人、好酸球性胃腸炎1人、機能的ディスぺプシア1人、便秘1人、内分泌負荷試験5人(低身長4、汎下垂体機能低下1)、肥満症1人、食物負荷試験33人、アナフィラキシー6人、川崎病18人、IgA血管炎3人、熱性けいれん16人(うち重積8、群発8)(起因ウイルスfluA5、アデノ2、fluB1、hMPV1)、無菌性髄膜炎2人(ムンプス1)、胃腸炎関連けいれん1人、てんかん1人、失神(迷走神経反射)1人、尿感染症9人、ネフローゼ症候群(初発)1人、水腎症(腎結石)1人、皮膚疾患(湿疹など)3人、新生児黄疸9人、体重増加不良1人、児童虐待1人

3.3 育児支援活動

- ・うぶごえ学級(院内両親教室):小児科医が講師として月1回担当。
- ・孫と一緒に広場(祖父母への育児教室):年3回

2016年 入院患者病名内訳
(早期新生児除く)



実施。

- ・ベビーマッサージ：看護師・保育士のマッサージ指導および医師による育児相談。月1回。
- ・ベビーランチ：離乳食（病院が用意する）を食べながら、医師、栄養士と育児相談を行います。月1回。
- ・子育て教室：生後6～12ヵ月の児を対象に1クール3回の教室（医師や各職種の講演やみんなで遊ぶ等）を行い、そこで子育ての仲間づくりもすすめています。年2クール（前期／後期）実施しています。

3.4 外部活動

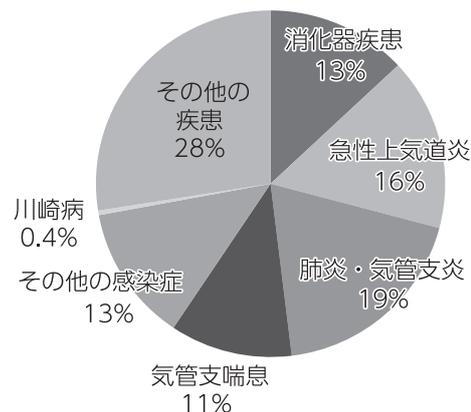
保育園6園の園医、木曾呂小学校、差間小学校の2校の校医を担当しています。市の3歳児健診も輪番で担当しています。法人内の川口診療所の依頼により保育園（1園）の健診も担当しました。こども保健教室を1回実施しました。

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

初期研修医3名、家庭医後期研修医1名が小児科研修を実施しました。カンファレンスは、入院患者の病棟カンファレンス（週1回）、乳児健診カンファレンス（週2回）、アレルギーカンファレンス（週1回）、産婦人科と合同で周産期カンファレンス（月1回）、文献抄読会（週1回）を定期的に行っています。

2016年 外来患者病名内訳



4.2 研究

学会研究会活動（発表）

- 2月28日 平澤 薫「運動会練習後に背腰痛で発症した急性腎不全の1例」第53回埼玉医学会総会
- 3月10日 荒熊智宏「A型インフルエンザによる良性急性小児筋炎と診断した1例」川口市小児科部会症例検討会
- 7月28日 平澤 薫「過呼吸発作後に低換気を来した症例」川口市小児科部会症例検討会
- 11月24日 荒熊智宏「2016年ヒトメタニューモウイルス（hMPV）感染症の特徴」川口市小児科部会症例検討会

外科

1. 概要、特徴、特色

当院外科は、地域の患者様に必要十分の良質で高度な医療を提供すべく、日々の診療に励んでいます。

2016年の総手術件数は2015年より若干減少したものの、肝切除の実施件数が倍増するなど、難易度の高い長時間手術が増加した印象のある年でした。実際、消化器外科学会の定める高難度手術の割合もわずかですが上昇しておりました。高度進行がんなどの手術はChallengingですが、安全性を担保しつつどこまでの拡大手術を行えるかは、外科診療の質を測る一つの指標であると考えられます。近年は腫瘍内科とも連携しつつ、可能なかぎり治癒の可能性を追求する姿勢を大切にしています。

腹腔鏡の割合は近年の傾向どおり、さらに増加しておりました。胃切除、大腸切除でそれぞれ腹腔鏡割合が4割、5割を超えるようになりました。肝切除においては、腹腔鏡件数が前年の2件(12%)から急増して12件(52%)となり、2016年が本格的な腹腔鏡手術導入年となりました。肝切除において、腹腔鏡手術は創の縮小化および出血量の減少効果が胃切除や大腸切除に比して高いと考えられ、痛みが少なく、回復が早いと患者様にも好評で、実際に入院期間も大幅に短縮しておりました。今後は安全性を担保しつつ、さらに適応術式を広げていくのが課題と考えております。

救急診療においては地域の急性期医療を守る病院の外科として、緊急性の高い疾患には迅速な対応を心がけています。

また、埼玉県がん診療指定病院として、専門性の高い疾患にも対応できるよう体制の強化を進めております。現在、1名が愛知県がんセンター中央病院消化器外科で研修中です。地域の医院・診

療所からのご紹介には速やかな対応を心がけております。

今後も地域の患者さんから信頼される埼玉協同病院外科であるよう研鑽を積み、日々の診療に励んで参ります。

2. スタッフ

院長補佐

井合 哲 日本外科学会指導医、麻酔科標榜医

外科技術部長

市川 辰夫 日本外科学会指導医

外科技術部長

長 潔

外科部長

井上 豪 日本外科学会外科専門医

外科技術部長

植田 守 日本外科学会指導医、日本消化器外科学会認定医、日本胸部外科学会認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医

外科医長

浅沼 晃三 日本外科学会外科専門医、日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、麻酔科標榜医

病棟医長

栗原 唯生 日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、ICD(感染管理医師)、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本肝臓学会肝臓専門医

外科医長

佐野 貴之 日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、

日本消化器内視鏡学会消化器内視
鏡専門医

医員（外部研修）

重吉 到 日本外科学会外科専門医

医員

岸本 裕

3. 診療実績

3.1 外来診療（次頁表参照）

3.2 手術（次頁表参照）

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

当院は、日本外科学会専門医制度修練施設、呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器外科学会専門医制度関連施設になっています。

4.2 研究

・植田 守：

「メッシュ修復が有用であった食道裂孔ヘルニア症例の検討」

第 34 回埼玉県外科集談会 11 月 5 日

・佐野貴之：

「落下胃石による食餌性イレウス症例について」

第 34 回埼玉県外科集談会 11 月 5 日

・栗原唯生：

「原発性胆汁性肝硬変に肝細胞癌と肝内胆管癌を合併した 1 例」

第 24 回日本消化器関連学会週間 11 月 5 日

「膵尾部インスリノーマと Rb 直腸癌を腹腔鏡下に同時切除した 1 例」

第 78 回日本臨床外科学会総会 11 月 26 日

・岸本 裕：

「局所進行直腸癌に対する術前化学療法（FOLFIRI）で pCR が得られた一例」

第 78 回日本臨床外科学会総会 11 月 26 日

〈外来診療〉

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
患者数	1,403	1,302	1,235	1,194	1,153	1,399	
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	1,323	1,142	1,286	1,332	1,215	1,377	15,361

〈手術〉

診療実績 (診断群分類6桁別、2016年退院患者)

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
040040	肺の悪性腫瘍	47	66.0	10.3	0	24	20		23	24
040200	気胸	9	26.7	9.7	0	3	7			9
060010	食道の悪性腫瘍 (頸部を含む)	13	62.9	23.0	0	5	6	1	5	7
060020	胃の悪性腫瘍	65	70.4	17.0	1	19	36	1	23	41
060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	120	72.0	15.5	4	44	81	7	31	82
060040	直腸肛門 (直腸S状部から肛門) の悪性腫瘍	84	68.0	15.5	0	26	51	3	37	44
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む)	28	71.0	14.0	0	7	24	1	1	26
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	13	70.2	38.2	0	8	9		3	10
060100	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む)	58	71.8	2.5	0	9	51	7		51
060150	虫垂炎	72	46.6	6.3	8	23	57			72
060160	鼠径ヘルニア	103	66.9	5.7	2	26	101			103
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	23	69.0	8.3	1	6	21			23
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	70	69.9	14.4	17	11	18			70
060330	胆嚢疾患 (胆嚢結石など)	21	60.2	6.7	0	5	21			21
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	112	63.8	8.1	7	43	106	1		111
060340	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	19	61.8	13.3	2	9	7		1	18
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍 (女性器臓器を除く)	16	63.2	19.3	6	7	12	1	1	14
180040	手術・処置等の合併症	20	72.5	8.0	1	3	17	1		19
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	25	70.4	30.4	2	11	15		5	20
	その他の診断群	94			11	31	51	3	3	88
	計	1,012			62	320	711	26	133	853

腹腔鏡手術施行割合

	件数	鏡視下	鏡視下手術割合
胃切除・全摘	25	11	44%
結腸切除	70	39	56%
肝切除	23	12	52%
胆のう摘出	126	125	99%
胆管切開	4	4	100%
膵・脾切除	9	2	22%
虫垂切除	45	44	98%
直腸切除・切断	29	18	62%
癒着・縫合その他	14	7	50%
総計	345	262	76%



消化器外科学会修練施設 手術難易度

難易度	件数	割合
高難度	47	7.9%
中難度	193	32.4%
低難度	355	59.7%
計	595	

手術部位（併施重複）	件数
腹部・消化器	636
呼吸器	30
末梢血管	25
頭頸部・体表・内分泌	6
小児の外科手術	1
その他	2
総計	700
乳腺	42

乳腺外科

1. 概要、特徴、特色

日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、11人に1人が乳がん罹患しています（2008年データ）。また社会においても家庭においても重要な役割を果たしている40歳から50歳の年代にもっとも罹患率が増えています。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるように、当院で乳腺外来を立ち上げ、診療を行っています。

1.1 紹介

乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。特に乳がん患者様の診断から治療までかかわることにより、精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、コメディカルとの連携を図っています。
*当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

2. スタッフ

医長

金子しおり 日本外科学会外科専門医、日本乳癌学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

非常勤

佐野 宗明 日本乳癌学会専門医、医学博士

3. 診療実績

3.1 検査・手術（次頁表参照）

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修（次頁表参照）

4.2 研究

- ①抗癌剤によるサイトリスクマネージメント
- ②タキサン起因性末梢神経障害に対する弾性ストッキングによる予防効果の検証

検査件数

検査	件数
乳房超音波	2,305
乳腺生検	8
乳腺穿刺	77
乳房超音波ガイド下生検	132
USマンモトーム	0
STマンモトーム	1
乳房MRI	49

手術件数

行為名称	件数
乳腺膿瘍切開術	1
乳腺腫瘍摘出術 (長径5センチメートル未満)	1
乳腺腫瘍摘出術 (長径5センチメートル以上)	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術〈腋窩部郭清を伴わないもの〉)	19
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術〈腋窩部郭清を伴わないもの〉)	8
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術〈腋窩部郭清を伴うもの〉・内視鏡下によるものを含む)	7
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術〈腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの〉・胸筋切除を併施しないもの)	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術〈腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの〉・胸筋切除を併施するもの)	1
計	43

教育・研修

病棟カンファレンス	毎週月曜日	入院患者のカンファレンス
乳腺カンサーボード	毎週水曜日	腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療方針(術前、術後、再発)を検討。術式の検討、全身状態のチェックなどを行う。患者対応や緩和ケアなども検討していく。
画像カンファレンス	毎月1回	放射線技師・臨床検査技師とともに画像検討。
乳腺科診療チーム会議	毎月1回	乳腺診療の運営について他職種と検討していく。

整形外科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後ますます診療体制を充実させてまいります。

診療体制は5人の常勤医師と、13人の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、関節外科、上肢の専門医が勤務にあたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っております。

2008年10月1日より、人工関節、股関節外科を当病院整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。2016年の人工関節手術実績は566件であり、埼玉県内でも有数の症例数となっております。

骨粗鬆症、外傷一般等にも適時対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

日本整形外科学会研修認定施設

日本リウマチ学会教育施設

日本手外科学会研修施設

2. スタッフ

部長

仁平高太郎 日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本リウマチ学会リウマチ専門医

副部長

桑沢 綾乃 日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本整形外科

	学会認定リウマチ医
病棟医長	
北村 類	
医長	
遠藤 大輔	日本整形外科学会整形外科専門医
医員	
楊 宝峰	
非常勤	
後藤 晋	日本整形外科学会整形外科専門医、 日本整形外科学会認定スポーツ医
尹 栄淑	日本整形外科学会整形外科専門医
朝長 明敏	日本整形外科学会整形外科専門医、 日本整形外科学会認定リウマチ医、 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病 医、日本リウマチ学会リウマチ専 門医
森岡 秀夫	日本整形外科学会専門医、日本整 形外科学会認定リウマチ医、日本 リウマチ学会リウマチ専門医、日 本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
小粥 博樹	日本整形外科学会専門医、日本整 形外科学会認定脊椎脊髄病医
岡崎 真人	日本整形外科学会整形外科専門医、 日本手外科学会専門医
河野美貴子	日本整形外科学会整形外科専門医
日下部 浩	日本整形外科学会整形外科専門医
大橋麻衣子	日本整形外科学会整形外科専門医
前田 悠	日本整形外科学会整形外科専門医
西山雄一郎	日本整形外科学会整形外科専門医
井上 貴文	日本整形外科学会整形外科専門医
金子 陽介	

3. 診療実績

(次頁表参照)

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

モーニングカンファレンス (週3回)

病棟カンファレンス (週1回)

4.2 学会発表、講演

・仁平高太郎

「難治性症例に対するTHA」

第14回埼玉股関節を語る会

・仁平高太郎

「寛骨臼回転骨切り術後のTHA」

Stryker infos No.27 17-19 2016年

・桑沢綾乃、仁平高太郎

「TKAにおける術後疼痛—持続選択的脛骨神
経ブロックの使用—」

JOSKAS 第41巻 第2号 386-387

2016年

・金城康治、山内裕樹、桑沢綾乃

「大腿骨頭壊死症に併発した化膿性股関節炎に
抗生剤含有セメント骨頭を用いて加療した一
例」

Hip Joint 第42巻 第1号

168-171 2016年

4.3 テレビ出演

・仁平高太郎

「ストレッチと股関節」

フジテレビ「ノンストップ!」10月12日

5. その他

股関節疾患と膝関節疾患に関して患者会がそれ
ぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中
心に、医師による疾患の理解を深めるための講演
が行われています。

診療実績 (診断群分類6桁別、2016年退院患者)

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的 繰り返 し入院	その他 の加療
070160	上肢末梢神経麻痺	9	61.2	3.1	0	7	9			9
070230	膝関節症 (変形性を含む)	157	73.5	34.4	2	53	155			157
070341	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 頸部	23	63.7	14.3	0	1	11	12		11
070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	87	71.2	12.2	0	23	38	47		40
070350	椎間板変性、ヘルニア	9	59.0	23.2	1	3	5	2		7
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形 (上肢)	8	35.3	3.6	0	5	8			8
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	12	64.7	33.6	3	5	8	1	1	10
160620	肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む)	8	51.5	7.0	0	4	8			8
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む)	8	74.0	36.8	1	3	2	2		6
160700	鎖骨骨折、肩甲骨骨折	32	47.0	3.5	1	26	31		7	25
160720	肩関節周辺の骨折脱臼	15	60.3	8.9	2	11	15		2	13
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	30	41.2	4.2	1	24	30		4	26
160760	前腕の骨折	48	55.0	3.2	2	37	47		8	40
160780	手関節周辺骨折脱臼	15	45.6	3.9	0	11	15		1	14
160800	股関節大腿近位骨折	110	80.2	35.5	48	59	106			110
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	21	58.1	17.1	4	7	20		3	18
160835	下腿足関節周辺骨折	12	53.9	17.8	2	7	11		1	11
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	33	46.4	20.1	2	31	33		4	29
180040	手術・処置等の合併症	21	73.4	42.7	0	12	19			21
07010x	化膿性関節炎 (下肢)	10	49.5	29.7	1	5	9			10
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む)	276	65.0	22.0	1	106	274			276
	その他の診断群	89			15	37	64	4	0	85
	計	1,033			86	477	918	68	31	934

手術 (併施含む)

術式	件数
人工股関節置換術	345
人工股関節再置換術	11
人工膝関節置換術	221
人工膝関節再置換術	4
その他の関節手術	38
脊椎固定術	64
椎間板摘出術	4
脊髄腫瘍摘出術	1
骨移植術	376
骨折観血的手術	219
人工骨頭挿入	33
四肢切断	1
靭帯断裂手術	4
骨腫瘍切除術	1
その他の手術	210
計	1,532

他院からの紹介	件数
外来	753
入院 (外来後入院含む)	327

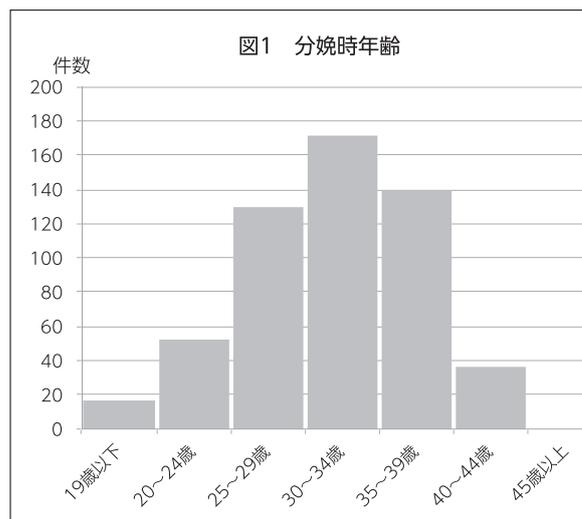
産婦人科

1. 概要、特徴、特色

2016年は医師1名が突然退職となる中、残った4名の医師で医療活動を支える形となりました。また、スタッフの中でも産休、育休取得が続き、喜ばしいことではありながら、少ない人数で診療を継続するために様々な軋轢を生じた1年でもありました。医療活動としては、分娩数547件(表1)、手術数194件(表4)と2015年を上回る実績を残すことができました。

また、2017年度開始となる新専門医制度では、自治医科大学さいたま医療センターを基幹施設とする研修施設群に連携施設として所属し、専攻医を募集する中、1名の応募があり、2017年4月より研修指導を開始する予定となりました。

分娩数は前年に比し22件の増加、分娩数のピークは30歳前半であり、40歳以上の出産も36



件ありました。妊娠糖尿病も増加しており(40件)、インスリン導入となった数も30件ありました(表1、図1)。若年や精神疾患合併妊娠、多産や経済的困窮など生活基盤が脆弱な中で、妊娠の初診が遅れる例も多く見られました。当院の医療活動の理念に基づき、困難を抱えた患者様についても個別の事情を詳しく分析し、社会制度や保健センター・児童相談所等の公的機関と連携しながら、生活基盤を整えつつ育児支援を進めてきました。

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

年代別分娩数	2016年
19歳以下	17
20～24歳	52
25～29歳	130
30～34歳	172
35～39歳	140
40～44歳	36
45歳以上	0
計	547
帝王切開	106
合併症妊娠	
子宮筋腫	23
精神疾患	38
甲状腺疾患	9
高度肥満	14
糖尿病	5
PIH	36
GDM	40
円錐切除後頸管縫縮	14

表2 母体搬送の週数および紹介先

母体搬送	週数	件数
	～22週	1
	23～27週	3
	28～31週	7
	32～34週	5
	35週以上	0
搬送先		
	川口医療センター	6
	自治医大さいたま医療センター	3
	埼玉医科大学総合医療センター	3
	済生会川口総合病院	1
	さいたま日本赤十字病院	1
	深谷日本赤十字病院	1
	埼玉病院	1

表3 出生前診断紹介数

出生前診断 (重複あり)	件数
羊水検査	7
超音波検査	5
NIPT	19

また、外国人の出産も増加しており、17件(中国8件、トルコ系クルド人5件、ベトナム3件、韓国1件)の妊娠管理を行いました。言葉の壁だけではなく、妊娠出産に対する考え方や文化の違いに戸惑うことも多く、難民支援協会等の支援団体の助言も得ながら一人ひとりに丁寧に対応できるよう力をつけてきました。

母体搬送については、16件と前年に比較し増加しました。県のコーディネーターシステムにより搬送先を決定していただ

くことも多く、県南の厳しい周産期事情の中で安全確保をして行くうえで、なくてはならない存在となっています(表2)。

出生前診断については、NIPT紹介は前年と同数でした。また、都内でエコーを用いた胎児診断を専門とするクリニックも知られるようになり、患者様の希望により紹介することも増えていきます(表3)。高齢出産も増加する中、検査についての情報提供をしつつ個々の生命倫理観にも配慮し、納得できる形での決定ができるよう心がけてきました。

また、先天性心疾患の診断能力を高めるため、埼玉県立小児医療センター循環器科菱谷隆先生に2015年12月から2016年3月まで、月1回胎児心エコーの指導を受け、技量の向上に努めました。

手術については194件で、内訳では腹腔鏡手術と頸部異形成の手術が増加しました(表4)。

表4 婦人科手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	194	うち紹介 69
子宮筋腫	49	(帝切時6含む)
卵巣腫瘍・含内膜症 (うち腹腔鏡)	39 (11)	
異所性妊娠 (うち腹腔鏡)	7 (6)	
頸部異形成・上皮内がん	42	
子宮脱	15	
その他	43	

帝切併施6

表5 ホルモン療法患者数

低用量ピル	3ヵ月以上
トリキュラー	40
オーソ777	5
ルナベル・フリウエル	80
計	
エストラーナテープ	103
メノエイドコンビパッチ	36
ディナゲスト	45
ミレーナ	29
GnRH	3ヵ月以上
リュープリン	5
ナサニール	49

表6 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
がん・感染症センター都立駒込病院	13
埼玉県立がんセンター	7
国立がんセンター中央病院	6
がん研究会有明病院	4
自治医科大学附属さいたま医療センター	4
獨協医科大学病院	4
慶應義塾大学病院	4
その他	5
悪性腫瘍	例数
子宮頸がん	11
子宮体がん	23
卵巣がん	9
骨盤内腫瘍	2
がん性腹膜炎	1
腔がん	1
総計	47

表7 健診・予防

子宮がん検診	
頸がん	4,971
体がん	3,571

月経困難や過多月経については、保存的治療の選択肢としてIUS(ミレーナ®)が保険適応となり、29件と使用数が増加しています。経済的時間的にメリットの大きい治療法ですが、挿入に関連したA群溶連菌による重症感染症の発生もあったため、合併症に注意しながら症例を選んで使用してきました。ホルモン補充も社会的に認知度が高まり、施行例が増加しています(表5)。

子宮がん検診は施行数で頸がん17%、体がん16%の増加がありました(表7)。頸がん検診は上皮内病変で発見されることが多く、子宮を温存した治療につながりました。体がんについては、検診による診断の他外来診療での診断例も増加し、紹介した悪性腫瘍症例中、頸がんは19例から11例と減少しましたが、体がんは11例から23例と大幅に増加しました。悪性腫瘍の患者様の中には、診断がついても高齢や合併症、進行期により治療先の受け入れに難渋することもあり、緩和的な対応を含め、当院で看取る症例もありました(表6)。

産科・婦人科ともに高次医療機関と連携し、当院での管理が困難な場合は、積極的に紹介させていただいています。その中でも紹介前後の安心・安全や、紹介後に治療継続が難しくなった場合も、最期まで責任を持って診療にあたることを心がけ、引き続き地域の信頼を得られる医療活動を行っていきたいと考えています。

2. スタッフ

部長

市川 清美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医、検診マンモグラフィー読影認定医師、母体保護法指定医、日本母体救命システム普及協議会ベーシックコースインストラクター、新生児蘇生法講習会Aコース受講

副部長

榎本 明美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

医長

芳賀 厚子 日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本産科婦人科学会専門研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、母体保護法指定医、日本母体救命システム普及協議会ベーシックコース修了

医員

伊藤 浄樹 日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本専門医機構産婦人科専門医

布施 彩 2016年8月退職

非常勤

竹内 育代 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

岡野 滋行 日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医

前川 徹 2016年7月勤務終了

上野 紀子 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

藪田 直樹

池谷幸太郎 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

堀内 功 日本産科婦人科学会産婦人科専門

医（自治医科大学さいたま医療センターより当直支援）

春名 佑美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医（自治医科大学さいたま医療センターより当直支援）

嘱託

神谷 稔 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

3. 診療実績

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

表2 母体搬送の週数及び紹介先

図1 分娩時年齢分布

表3 出生前診断紹介数

表4 婦人科手術

表5 ホルモン療法患者数

表6 悪性腫瘍紹介数

表7 健診・予防

4. 教育・研修・研究活動

定例カンファレンス（周産期1回/月 術前2回/月 病棟1回/週）

【学術活動】

- ・「当院における新基準導入前後の妊娠糖尿病患者についての検討」
埼玉産科婦人科学会雑誌 第46巻1号 p3-9、2016 原著 芳賀厚子
- ・「糖尿病と産婦人科——妊娠糖尿病を中心に」
第13回川口DMカンファレンス 2016年5月26日 Short Lecture 芳賀厚子

【社会的活動】

- ・うぶ声学校、「孫と一緒」広場（祖父母の育児支援）、命の授業
- ・「けんこうと平和」8月号 子宮内膜症について 担当 市川清美
- ・トトロのふるさと 5月号 Message from the Doctor 芳賀厚子

泌尿器科

1. 概要 特徴、特色

泌尿器科とは腎、膀胱、前立腺、男性生殖器に関する病気を治療する科です。当院泌尿器科では、地域の泌尿器科疾患の治療に貢献すべく外来・入院の治療にあたっています。

近年増加する尿路結石症の治療に対応すべく、体外衝撃波結石破碎術の件数を増やして診療を行っています。また、専門看護師による骨盤底筋体操、自己導尿の指導を行い、問診も点数化し、客観的に症状を把握して、できるかぎりガイドラインに沿った治療を心がけています。重症の患者さんは獨協医科大学越谷病院または帝京大学医学部附属病院と連携を取って治療にあたっています。

2. スタッフ

部長

林 幹純 日本泌尿器科学会認定専門医、日本透析医学会透析専門医

非常勤

斎藤 恵介 日本泌尿器科学会認定専門医
 八木 宏 日本泌尿器科学会認定専門医
 永榮 美香 日本泌尿器科学会認定専門医
 定岡 侑子
 岩端 威之
 古謝 将之

常勤医は1名(泌尿器科専門医、透析専門医)、非常勤6名(専門医3名)で治療にあたっています。主に獨協医科大学越谷病院、帝京大学医学部附属病院の医師が非常勤を担当しています。

3. 診療実績

3.1 外来診療

外来は週6日で2～3診体制で行っています。1日の平均外来患者数は約75人です。午後は主

に予約外来と膀胱鏡、前立腺生検、尿路造影などの検査を行っています。

外来化学療法はホルモン抵抗性前立腺がんに対してドキタキセル、骨転移の症例はゾレドロン酸やデノスマブを投与、膀胱がんは術後の再発予防として外来で膀胱内注入を行っています。

尿路結石に対して体外衝撃波結石破碎術は症例を選んで外来で行っています。

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
患者数	1,332	1,332	1,410	1,938	1,753	1,863	
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	1,810	2,038	1,874	1,991	1,908	1,943	21,192

3.2 病棟診療

病棟は主に手術の患者さんです。その他に尿路上皮がんの化学療法、体外衝撃波結石破碎術、前立腺生検の患者さんを管理しています。

3.3 手術

(次頁表参照)

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

日本泌尿器科学会専門医教育施設

診療実績（診断群分類6桁別、2016年退院患者）

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	その他 の加療
11004x	尿道・性器の良性腫瘍	1	75.0	4.0	0	1	0	1	
110070	膀胱腫瘍	37	73.6	8.7	0	13	33	4	33
110080	前立腺の悪性腫瘍	163	70.8	2.3	0	59	0	161	2
110100	精巣腫瘍	2	67.5	7.0	0	0	2		2
11012x	上部尿路疾患	122	57.7	2.3	2	29	117		122
11013x	下部尿路疾患	9	76.3	3.2	0	1	7		9
110200	前立腺肥大症等	2	67.0	8.5	0	0	2		2
11022x	男性生殖器疾患	15	64.6	5.9	1	4	8		15
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	1	82.0	8.0	1	0	0		1
110310	腎臓または尿路の感染症	2	73.0	11.0	0	0	1		2
110320	腎、泌尿器の疾患（その他）	2	59.5	6.5	0	1	2		2
110420	水腎症（その他）	2	76.5	4.0	0	2	1		2
	計	358			4	110	173	166	192

手術（併施含む）

術式	件数
上腕動脈表在化法	1
内シャントまたは外シャント設置術	34
経尿道的尿管ステント留置術	7
経尿道的電気凝固術	1
膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 電解質溶液利用のもの	10
膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	22
外尿道腫瘍切除術	1
精巣悪性腫瘍手術	2
陰嚢水腫手術 交通性陰嚢水腫手術	1
陰嚢水腫手術 その他	7
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	1
経尿道的前立腺手術 その他のもの	1
前立腺悪性腫瘍手術	1

体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	142
前立腺生検	161

他院からの紹介

外来	388
入院（外来後入院含む）	38

皮膚科

1. 概要 特徴、特色

協同病院皮膚科には常勤医2名、非常勤医5名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつです。この7名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかりと診断し治療することを基本方針として診療をしています。

診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法の他、手術療法や紫外線治療なども施行し効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

2. スタッフ

部長

伊藤 理恵 日本皮膚科学会認定専門医、指導医、医学博士

医長

田中 純江 日本皮膚科学会認定専門医

非常勤

六波羅詩穂 日本皮膚科学会認定専門医

上田 周 日本皮膚科学会認定専門医

関 詠姿 日本皮膚科学会認定専門医

笹平 摂子 日本皮膚科学会認定専門医

沢辺優木子

3. 診療実績

3.1 外来診療

平日午前中は3人体制で、金曜日午後は1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2016年の皮膚科延べ外来受診数は20,383名であり、1日平均外来受診人数は72名でした。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性瘰癧、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

3.2 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。2016年の手術件数は335件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。おもな内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

3.3 紫外線治療

当科には長波長紫外線治療器(PUVA、UVB)とナローバンド中波長紫外線治療器(エキシマライト)があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い、良好な効果をあげています。

〈自費診療部門〉

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

- 1) アンチエイジングを目的としたレーザー治療(年間約270件)やイオン導入、ケミカルピーリング(年間約130件)、美白剤の処方など。
- 2) 男性型脱毛症への内服治療
- 3) 円形脱毛症などに対する局所免疫療法(SADBE治療)

- 4) 陥入爪への超弾性ワイヤーによる矯正治療
 5) ピアスホール作成
 などを施行しています。

4. 教育、研修

4.1 教育・研修

水曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

眼科

1. 診療実績

1.1 外来診療

2017年5月現在、常勤医師は勤務しておりません。非常勤医師による輪番体制で外来診療を実施しております。

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月
患者数	696	723	786	711
月	5月	6月	7月	8月
患者数	704	763	652	584
月	9月	10月	11月	12月
患者数	302	297	301	340
				合計
				6,859

1日平均外来受診人数 24人

耳鼻咽喉科

1. 診療実績

1.1 外来診療

2017年5月現在、常勤医師は勤務していません。東京大学医学部附属病院の耳鼻科より支援をいただいて、輪番体制で外来診療を実施しております。

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月
患者数	794	998	1,106	864
月	5月	6月	7月	8月
患者数	788	866	766	843
月	9月	10月	11月	12月
患者数	801	839	765	812
				合計
				10,242

1日平均外来受診人数 36人

精神科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院に精神科が開設されたのは、1986年です。精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、20年以上が経過しました。現在は精神科常勤医師2名、非常勤医師1名の体制となっています。

日本の精神医療は、歴史的に単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきましたが、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになってきています。その結果、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べ精神科医療は患者さんにとって大変利用しやすいものとなっています。その一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、むしろ最近では総合病院で働く精神科常勤医師数は先細りの傾向にあり、埼玉県南部地域でも常勤医師が複数いる病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として、以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、認知症、うつ病、不安障害、慢性期の統合失調症、アルコール依存症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近では出産子育ての過程で精神的に

不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら、家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

2. スタッフ

部長

雪田 慎二 日本精神神経学会認定専門医（指導医）、日本総合病院精神医学会特定指導医、精神保健指定医、一般病院連携精神医学特定指導医

医長

荻野マリエ 日本精神神経学会認定専門医（指導医）

非常勤

堀内 慶子 日本精神神経学会認定専門医、精神保健指定医

3. 診療実績

外来診療：月～金で再来1～2診体制、新患外来は別枠で実施。新患は年間約140例。

精神科デイケア：月・水・金の週3回実施。

リエゾン活動：身体科入院患者への精神科医療の提供。緩和ケアチーム回診。認知症ケアチーム回診。リエゾンチーム回診。

緩和ケア病棟：病棟スタッフとして診療。

被ばく相談外来：週1回。放射線被ばくによる健康問題の相談援助。

4. 教育・研修・研究活動

精神科多職種カンファレンス（週1回）

精神科抄読会（週1回）

地域の社会復帰施設との合同カンファレンス（1回／2ヵ月）

5. その他

地域での講演活動（認知症・うつ病・統合失調症など精神障害に関する啓発的講演、被爆者医療・放射線被ばくによる健康影響等についての講演）

病理診断科

1. 概要 特徴、特色

常勤医1名と非常勤医3名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断しております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では、日本臨床細胞学会で認定を受けた4名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

2. スタッフ

病理部長

石津 英喜 日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会専門医、日本内科学会総合内科専門医

産婦人科病棟医長

芳賀 厚子 日本臨床細胞学会専門医、日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本産科婦人科学会専門研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、母体保護法指定医、日本母体救命システム普及協議会ベーシックコース修了

非常勤

大石 克巳 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

北野 元生 日本病理学会口腔病理専門医

江石 義信 日本病理学会専門医

3. 診療実績

検体数の推移

年	2009年	2010年	2011年	2012年
解剖数	15	13	16	14
生検数	7,257	7,097	6,948	6,989
細胞診数	7,947	7,859	7,460	6,937
年	2013年	2014年	2015年	2016年
解剖数	8	9	12	20
生検数	7,138	7,136	6,147	5,955
細胞診数	6,982	6,923	7,405	7,503

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

認定施設：日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設

病理科内での症例検討会：週1回

消化器カンファレンス：週1回

CPC (臨床病理検討会)：医局主催で年5回程度。

5. その他

当院の特徴として、病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても、当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

糖尿病内科

1. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

2. スタッフ

糖尿病専門外来、糖尿病初診外来、はじめ外来、フットケア外来、外来栄養指導、糖尿病透析予防指導外来を行っています。

科長

村上 哲雄 日本糖尿病学会研修指導医、日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医

医員

高橋きよ子 日本糖尿病学会研修指導医、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科指導医、日本内科学会認定内科医

島村 裕子 日本内科学会認定内科医

関口由希公 日本糖尿病学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリケア連合学会認定指導医

浅川 友美

非常勤

清水 縁 日本糖尿病学会研修指導医、日本糖尿病学会専門医

糖尿病学会認定研修指導医 3名

糖尿病学会専門医 4名

院内CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 11名

3. 診療実績

3.1 外来診療（患者数 2016年 13,093人）

3.1.1 糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

3.1.2 糖尿病教育、糖尿病教室も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンパセーションマップ（会話のための地図）を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。

3.1.3 インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は年間834名（うち75歳以上216名）でした。またインスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。

3.1.4 GLP-1注射薬（ビデュリオン、ピクトーザ、リキスミア、バイエッタ、トルリシティ）も導入しています。

3.1.5 C S I I（持続皮下インスリン注入療法）も行っています。

3.1.6 CGMS（持続血糖モニタリングシステム）も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。

3.1.7 フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。

3.1.8 糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導

を包括的に行い、2016年中では35名指導しました。

3.1.9 糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行って啓発を行っています。

3.2 病棟診療

3.2.1 糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、50名がパスに則りコントロールを行いました。

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育

4.1.1 毎週1回糖尿病カンファレンスを医師、コメディカルスタッフで行っており、症例数は2016年は82名であり、患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

4.1.2 毎月1回糖尿病事務局会議を行い、新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

4.2 研究

4.2.1 糖尿病合併症進展因子についての検討

4.2.2 糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

4.3 その他

4.3.1 学会活動

- ・日本糖尿病学会年次学術集会
- ・日本糖尿病学会関東甲信越地方会
- ・糖尿病学の進歩

4.3.2 研究会活動

- ・川口インクレチン研究会
- ・川口DMカンファレンス
浅川友美「CGMを用いて低血糖予防介入をおこなったSPIDDMの一例」第5回南埼玉CGMカンファレンス 10月13日
- ・CGMS研究会
- ・彩の国糖尿病研究会

麻酔科

1. 医師体制

常勤医：西川 毅、黒羽根朋子、金子吾朗

非常勤：岩切裕子、畔柳綾

他7名

初期研修医は適宜受け入れており、基本1ヵ月を金子先生がメインで指導しています。

2. 日常診療

2.1 手術室

2016年度の総手術件数は2358件、そのうち麻酔科管理は2061件(87%)でした。

症例数の年次変化は次頁のグラフに示す通りです。金子吾朗先生の復帰により、緊急帝王切開の待機が可能となり、また各種ブロック麻酔も盛んになってきました。

2.2 外来診療

2.2.1 麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術前診察目的で月、土の週2日行ってまいりました。外科、眼科外来の間借りから出発した診療は、F棟完成時にその2階を使わせていただけるようになりました。3診あって、うち2診で看護師の問診、残り1診で医師の診察です。

2016年度の総外来患者数は1,675名でした。

2.2.2 ペインクリニック

2016年4月から、週1回水曜日に女子医大から畔柳先生にお越しいただき、金子先生と二人で診察を行っています。対象は痛み全般です。三叉神経痛、頸椎症、頸椎ヘルニア、肋間神経痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎ヘルニアなど。薬物治療、局所麻酔によるブロック、透視下ブロック、高周波熱凝固治療等施行しています。2016年度の外来者数は520名でした。

2.2.3 術前術後回診

予定手術の術前回診のほとんどは麻酔科外来で済まされていますが、緊急、準緊急症例は病棟訪問することになります。

